地域活性化に果たすフィルムコミッションの役割と機能
ー富山県のフィルムコミッションの「協働」の観点からー

The role and function of film commissions in regional revitalization
-From the Perspective of “collaboration” with the Toyama Prefecture Film Commission-

社会科学系／文化政策論／論文

地域キュレーションコース
坂上　絵理
Eri Sakagami

◉研究目的

特定非営利活動法人 ジャパン・フィルムコミッションは、フィルムコミッションを「映画・テレビドラマ・ＣＭなどあらゆるジャンルの映像作品のロケーション撮影を誘致し、ロケが円滑に行われるよう支援を行う非営利公的機関」と定義している。本研究では、全国的に高く評価を受けている富山県内のフィルムコミッションに焦点を当て、なぜ富山が撮影地として選ばれるのか、どのような連携を構築し、役割分担はどのように行われているのか、そして富山のフィルムコミッションの持つ優位性は何なのかを明らかにする。

◉研究方法

本研究では、先行研究からフィルムコミッションの意義や目的についてまとめる。さらに富山県内のフィルムコミッション（富山ロケーションオフィス（ＴＬＯ）、富山フィルムコミッション、高岡フィルムコミッション）、他地域のフィルムコミッション（東京ロケーションボックス、熱海フィルムコミッション）へヒアリング調査を行い、その機能や特徴を調査する。そして、得られたデータから、富山のフィルムコミッションの組織体制、運営方法の特徴を明確にしたうえで、富山県内のフィルムコミッションや各種団体との連携について研究、分析を行う。

◉結論と考察

結論として、富山県が撮影地として選ばれる理由は、①富山県が元々持つ環境・ロケ地としての価値、②富山県内のフィルムコミッションの持つ活動体制の特徴、③富山県の地域性、住民性の３点に集約できる。

①は、富山県は「海」、「山」、「街」が揃っており、さまざまな撮影に柔軟に対応が可能になる点である。富山県は日本海側に位置し、富山湾がある。綺麗な海のカットは映画やドラマでも重宝される傾向にあり、撮影地として高い価値を持っている。また、富山県には立山、剱岳、二上山など多くの山岳が存在する。山地の撮影は機材の持ち運びや天候など困難な面も多いが、富山のフィルムコミッションは多くの撮影経験があり、山地の撮影にも慣れている。そして、何気ない日常のシーンなどを撮影する際に、特に目立った特徴のない、何気ない街並みというのは重宝される傾向にある。また、富山県が推進しているコンパクトシティ戦略により、撮影隊が効率よく移動しながら多くの撮影を実施できたり、2015（平成27）の北陸新幹線の開業により、ロケ隊が日帰りで撮影を行えるなど、富山の街のつくりが撮影隊にとって利便性が高い。

②は、富山県内のフィルムコミッションは、ＴＬＯが県全体の窓口となって取りまとめる体制をとっており、ＴＬＯが県内のフィルムコミッションを統括する窓口となっている点である。制作会社から県に依頼が入り、そこから各自治体のフィルムコミッションの担当者に連絡が行き、ロケハンを行なっている。

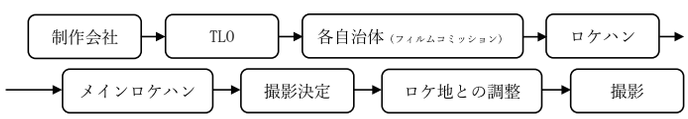

図１　富山県のフィルムコミッションの問い合わせから撮影までの流れ

この体制ではワンストップの窓口が実現し、制作会社の利便性が高くなる。また、県が中心となり、県内の市町村と緊密な連絡を取れることで、効率的なロケハンが可能になる。また、県が認識していない細かいロケ地を市は把握しており、市だけでは撮影許可を取ることが困難なロケ地も、県の介入で撮影可能になるなど、県と市の協力で、迅速・的確な対応ができる。こうした補完的な関係は、制作陣に高く評価されている。

③は、フィルムコミッションの職員は基本的に市や観光協会の業務と兼任している場合がほとんどであり、普段の業務を通して、市民と職員の距離感が近い点である。そこで、普段の業務の延長線上で、施設使用許可やエキストラ招集などといったフィルムコミッション業務に必要な要望を聞いてもらうことが多い。また、ヒアリング調査から、富山の地元住民によるエキストラ登録数が多いこと、普段あまりロケが行われない地域の住民は自分の住んでいる地域が撮影地になることを喜ぶ傾向にあり、逆にロケが何度も行われている地域の住民は、ロケに慣れている分、撮影を円滑に行えることなどから、いずれも富山県民はロケの撮影に協力的であること、自治会長やボランティア団体、商工会議所との連携がロケの誘致にプラスの効果をもたらしている例があることが明らかになった。

これらの三つの要因から、富山のフィルムコミッション間、商工会議所やボランティア団体など各関係団体、地元住民の間には富山独自の「協働」の関係があり、意識せずともロケを受け入れるインフラ、ソーシャルキャピタルが出来ていることが明らかになった。